

CAS	118741
物質名	ヘキサクロロベンゼン
IARC Vol. (発行年)	79 (2000年)
遺伝子傷害性に関する知見	<ul style="list-style-type: none"> ・ in vitro 試験系では、ヒトとラットの初代培養肝細胞で小核を誘発した。 ・ 本物質を含む塩素系溶剤の暴露を受けた労働者を対象とした調査が1つあり、リンパ球における小核の頻度上昇を認めたが血液中の本物質の濃度との関連は認められなかった。 ・ 本物質が遺伝子傷害性である証拠は少ない。
実験動物に関する知見	<p>評価：十分な証拠</p> <p>概要：マウス、ラット、ハムスターに経口投与した結果、全ての種で肝細胞の腫瘍を認め、ラットに尿細管の腫瘍を認めた。</p> <p>周産期中に暴露を受けたラットでは、雄で副甲状腺腺腫を、雌で副腎褐色細胞腫を認めた。</p>
ヒトに関する知見	<p>評価：不十分な証拠</p> <p>概要：乳がんに関する疫学調査のうち1調査で、エストロゲン・レセプターが陽性の閉経後の女性において本物質への暴露と乳がんの発生との間に有意な関係がみられたが、症例数が少なかった。</p> <p>米国における大規模なケースコントロール研究では、暴露量が上位3/4に入る女性の乳がんのリスクは下位の女性の2倍だった。</p> <p>しかしながら、この研究では用量 - 反応関係の証拠が得られなかった。</p>
評価結果	上記のとおり、本物質が遺伝子傷害性である証拠は少ないと考えられた。